

## 耐震診断結果一覧表の見方

### 確認の手順

構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価は、次の①から③の手順で確認してください。

### 要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断結果

【小学校、中学校、中等教育学校の前期課程もしくは特別支援学校】

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	〇〇小学校	京都市〇〇〇〇	学校	建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項第1第二号に定める建築物の耐震診断の方法	Is=0.55 q=1.15	耐震改修	平成30年4月(着工)	
2	〇〇中学校	京都市〇〇〇〇	学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/ Iso=1.35 Ctu・Sp=0.55			
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.55 q=1.15 (耐震改修工事中)			
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

① 同じ耐震診断の方法の名称を探す

③ 同じ安全性の評価を探し確認する

② 同じ数値となる評価を探す

### 附表 耐震診断の評価の結果と構造体力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

※①耐震診断結果のうち最小値のものを記載

②Iso=0.6, Z・G・U=1.0とする。

③構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の分類

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項第1第二号に定める建築物の耐震診断の方法	Is<0.3 又は q<0.5	左右以外の場合	0.6 ≤ Is かつ 1.0 ≤ q
「公立学校施設に係る大規模地震対策関係法令及び地震防災対策関係法令の運用細目」	Is<0.3 又は q<0.5	左右以外の場合	0.6 ≤ Is かつ 1.0 ≤ q
⋮	⋮	⋮	⋮
一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」に定める「第2次診断法」	—	—	1.0 ≤ Is/ Iso

I 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険が高い。

II 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険がある。

III 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険が低い。

震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示すもので、いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないものとされています。

### 耐震診断結果の一覧表の整理の方針

- 1 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価は、構造上の棟別や階別等により算出された評価のうち、最小値を記載しています。
- 2 一棟の建築物で複数の耐震診断方法を採用した場合は、採用した診断方法別に安全性の評価の最小値を記載しています。
- 3 耐震改修等の予定には、耐震化の方針が検討中のものや方針は決定しているものの実施時期が未定であるものについては記載していません。
- 4 建築物の主たる用途には、要緊急安全確認大規模建築物の対象になる用途のみを記載しています。